

当面の病床機能転換等の予定について (有田保健医療圏)

和歌山県湯浅保健所

令和5年3月14日

前回調整会議での主な意見

産科クリニック新設について

- ・本当に産科は必要でありがたい話。(全員一致)
- ・有田地域で産科が必要であることは事実であるし、変に小さな粗末なものを作って欲しいという考えは全くない。
- ・220件の出産を確保するのは難しいのではないか
- ・220件を扱うことができても5床か6床で十分ではないか
- ・陣痛・回復病床、医学的管理病床、一般病床は機能的に分ける必要はない。
- ・お産が重なることはあるが、最大瞬間風速を議論してはベッドが足りない。

地域医療構想との関係について

マザー・キーは12床希望されているが、これが、有田医療圏の急性期病床を増やすことになるのか、それとも146床に含まれるのか。

令和4年度 病床機能報告 確認・記入要領(有床診療所用)

- ・許可病床として一般病床あるいは療養病床を有しているものの休床中の病床、・・(中略)・・母体保護法、その他の自由診療等での入院者における医療等を行う病床も対象になります。
- ・なお、病床機能報告制度では、医療法第7条第1項から第3項にもとづいて開設許可を受けている一般病床・療養病床が報告の対象となりますので、基準病床数制度において特例とされている特定の病床等も含めてご報告ください。

※有床診療所における機能の選択の例

産科や整形外科等の単科で手術を実施している有床診療所 → 急性期機能

病床機能報告より										
	H30.7.1 ～ R1.6.30	R1.7.1 ～ R2.6.30	R2.7.1～R3.6.30							
	しまクリニック	はまだ	粉川	花山ママ	稲田	しこね	奥村	榎本	いずみ	
	有田	和歌山				海南	橋本	田辺	新宮	
病床	10	10	9	11	19	19	4	18	12	10
機能	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期
新規入院患者数	513	623	306	750	1,487	1,623	146	681	634	242
内 大人	292	339	-	411	-	-	73	681	295	165
分娩件数	221	284	227	338	963	653	73	25	239	77
在院患者延べ数	2,945	3,455	612	3,874	7,082	7,262	1,022	3,030	3,041	1,386
退院患者数	512	636	605	751	1,467	1,621	144	682	543	240
有田市立病院の出生	29	5	※R1.12～分娩休止、R4.2～再開							

2021年の病床数と「2025年の必要病床数」（地域医療構想）

(単位：床)

圏域名	医療機能	2015年 7月1日現在	【1】 2021年 7月1日現在	【2】 地域医療構想 における 2025年の 必要病床数	【1】－【2】 2021年と 2025年 必要病床数 との乖離
有 田	① 高度急性期				
	② 急性期	350	209	146	63
	③ 回復期	85	233	148	85
	④ 慢性期（特例）	263	223	201	22
	⑤ 分類なし				
	小 計	698	665	495	170

産科クリニックが承認されれば、○床追加される

基準病床数は、病院及び診療所の病床の適正配置・過剰な病床数を抑制すること目的に、医療圏ごとの病床整備の基準として、医療法に基づき、病床の種類ごとに定めるものです。

有田医療圏 基準病床数 511

診療所に設置する一般病床に係る特例

都道府県の医療計画に、以下の診療所として記載又は記載されることが見込まれる診療所については、届け出により一般病床を設置することが可能

- ③ …小児医療、周産期医療その他の地域において良質かつ適切な医療が提供されるための特に必要な診療所

地域医療構想調整会議の設置・運営 地域医療構想策定ガイドラインより

○各医療機関における病床の機能の分化及び連携は自主的に進められることが前提となっており、地域医療構想調整会議では、その進捗状況を共有するとともに、構想区域単位での必要な調整を行う。

(地域医療構想調整会議において病床の機能の分化及び連携に関する議論の進め方(例))

- ①地域の医療提供体制の現状と、将来目指すべき姿について関係者で認識共有
- ②地域医療構想を実現していく上での課題の抽出
- ③具体的な病床の機能の分化及び連携の在り方について議論
(例)回復期機能の病床が不足している場合、それをどのように充足するか等
- ④地域医療介護総合確保基金を活用した具体的な事業の議論

地域医療構想の進め方 令和4年3月24日 厚生労働省医政局長

地域の医療提供体制の維持・確保を行うためには、医療機関内の取組に加え、各構想区域における地域医療構想の実現に向けた病床機能の分化・連携の取組など、地域全体での質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の確保を図る取組を進めることが重要であることに十分留意する。

なお、地域医療構想の推進の取組は、病床の削減や統廃合ありきではなく、各都道府県が、地域の実情を踏まえ、主体的に取組を進めるものである。

当面の病床機能転換等の一覧（有田保健医療圏）

No.	医療機関名	転換等の内容		転換等の時期
1	医療法人社団マザー・キー ファミリー産院ありだ	新設	急性期病床（産科）12床を新設	令和6年4月 （予定）

病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名 医療法人社団マザー・キー ファミール産院ありだ

現在の病床機能【概要】 <令和5年2月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
計				
(備考)				



今後の病床機能				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期	1	有床診療所入院基本料	12	
回復期				
計	1		12	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
産科病床を12床新設				

転換転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方

有田市からの熱意あるオファーと有田保健医療圏にあたる有田市域4市町（有田市、有田郡湯浅町、有田郡広川町、有田郡有田川町）のご要請、ご協力を受けまして開院を目指すことにいたしました。

日本では少子高齢化が問題になっておりこの地域におきましても例外なくその影響を強く感じておりますが、少子化の影響を受ける「お産」を取り巻く環境は少子化対策を推進するには程遠く、「赤ちゃんを産む」場所と産科に従事する医師が非常に減少してしまっている状況です。

この度、今まで培った医療の経験を基に地域の皆様に快適な環境下で安全なお産ができる産婦人科診療所の設立を計画いたしました。現在有田市立病院に勤務されている平野開士医師を院長としてお迎えし、地域医療に貢献したいと考えております。

当ファミール産院グループでは「しあわせなお産をしよう」を経営理念とし、「しあわせなお産」の実現のために「地域のお産を守り、社会インフラの一助となる」ことを目指しています。「お産」を出産だけでなく妊娠初期から産後までと捉え、産前から産後まで一貫して母親をフォローする体制を構築することで有田市域内での安全かつ安心なお産を実現し、市域の発展に寄与していく所存です。

また当グループは地域の医療機関との連携を大切にしています。妊娠期、分娩時、分娩後において、高次施設との連携は不可欠です。現時点ではまだどの病院・医院とも連携はできておりませんが、わかやまお産ネットワークに参加して、そのルールに基づき合併症や緊急の事態に対しては和歌山医大、日赤和歌山医療センター、ろうさい病院、ひだか病院と連携し、診診連携については、セミオープンシステムの仕組みを活用しながらお産を取り扱っていない施設との連携を目指します。さらに当院は産科救急・母体搬送・緊急時の対応についての院内講習会を実施し、地域の先生方にも御指導をいただきながら、地域の母体死亡率や重症化症例の減少に努めます。

当院では分娩を取り扱うため、病床の確保は必要不可欠です。当院設置にあたり12床を希望する根拠について以下の通り考えております。

【12床を希望する根拠】

当院の診療圏は上記有田市域4市町と設定いたしました。有田市域の過去の実績から年間分娩数240件/年が見込まれます。

- ・有田市域の病床数20床（有田市立病院10床、しまクリニック10床※R4廃止）
- ・これまでの有田市域での分娩数 年間約256件（H30～R3平均 H31MAX、R3MIN）
- ・有田市域の出産率約63%（H30～R2のMIN） ※1年間通しての分娩数が把握できる年度
- ・有田市域出生数379（R3実績MIN） ※上記出産率を乗じた分娩件数見込み約240件

これまでと同様と仮定すると有田市域での分娩数が240件見込まれることから、同規模の分娩数の取扱いのある、しまクリニックと同規模の病床数10床が必要と考えられます。

＜参考データ＞

	病床数	分娩数 H29	H30	H31	R2	R3	見込み
有田市立病院	10	19	57	47			
しまクリニック	10	243	220	237	272	190	
有田分娩件数①	20	262	277	284	272	190	256
							239
出生数(人)②		449	397	416	431	379	379
有田医療圏出産率①/②		58.4%	69.8%	68.3%	63.1%	50.1%	63.1%

H30～R3平均

R3出生数×R2出産率

過去最小値(R3)

年間通して分娩数が把握できる年のMIN

病床機能報告より

	H30.7.1 ～ R1.6.30	R1.7.1 ～ R2.6.30	R2.7.1～R3.6.30							
	しまクリニック		はまだ	粉川	花山ママ	稲田	しこね	奥村	榎本	いずみ
	有田		和歌山				海南	橋本	田辺	新宮
病床	10	10	9	11	19	19	4	18	12	10
機能	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期	急性期
新規入院患者数	513	623	306	750	1,487	1,623	146	681	634	242
内 大人	292	339	-	411	-	-	73	681	295	165
分娩件数	221	284	227	338	963	653	73	25	239	77
在院患者延べ数	2,945	3,455	612	3,874	7,082	7,262	1,022	3,030	3,041	1,386
退院患者数	512	636	605	751	1,467	1,621	144	682	543	240
有田市立(出生)	29	5	※R1.12～分娩休止、R4.2～再開							

年間240分娩の場合、80%が正常分娩(6日)、20%がカイザー(9日)、35%が計画分娩(前泊1日)、治療が必要な疾患(切迫・中毒症他)が23%(6日)※、いつ分娩となるかわからない中での安全分娩対応のための病床稼働率が60%として

- ①正常分娩 240×80%×6日÷365日÷60%=5.26
- ②カイザー 240×20%×9日÷365日÷60%=1.97
- ③計画前泊 240×35%×1日÷365日÷60%=0.38
- ④治療必要 240×23%×6日÷365日÷60%=1.51

となり、①～④の合計9.12、つまり計算上も10床必要と考えられます。

※治療が必要な疾患23%は病床機能報告記載の下記が根拠

しまクリニック	分娩入院	H30	221、その他入院(292-221)	分娩の	32%
しまクリニック		R1	284、(339-284)		19%
粉川産婦人科		R2	338、(411-338)		22%
榎本産婦人科		R2	239、(295-239)		23%

また当院の診療圏は上記有田市域4市町ですが、この4市町と同様の出生数推移をしている千葉県館山市域にて産婦人科を運営している当グループの施設「ファミール産院たてやま」の実績では、R3の館山市域出生数317に対して当院たてやまの分娩数272件、つまり館山市域のお産の約86%にあたる数の分娩が当院たてやまにて行われました（資料参照）。館山市のすぐ隣の鴨川市にはお産を取り扱っている亀田総合病院がありますが、それでもこれだけの割合の妊婦様が当院を選ばれています（参考までに、有田市域のR3出生数379の86%は326であり、計算上当院ありだは年間326件の分娩を取り扱う可能性があります）。

これだけの妊婦様が当院を選ばれるのには理由があります。当グループ理事長の杉本雅樹は次のような思いを持って取り組んでいます。経営理念である「しあわせなお産」の真髄は決して建物や食事の豪華さにあるわけではありません。起こり得る全てのことを包み隠さず伝え、万一ネガティブな事態が起きても全てオープンにする。「出産は怖いものではない」と実感してもらうため、可能な限り自然な分娩を促し、創（キズ）のないお産を目指す。陣痛が来てから出産するまでの間産婦さんをひとりにしておかず、助産師や看護師が寄り添い声を掛けて不安を感じさせない。さらにお母さんとなったあとも育児に対して前向きになれるようにアドバイスしていくことにあります。当院が行っているアンケートやwebサイトのクチコミによると、妊娠・出産を経験した女性は、そこにもものすごく良い思い出があったなら、次もつくりたいとお考えになるようです。当院ができるだけ質の良い医療とサービスを行うことが出生数の増加に結び付き、地域貢献につながると信じています。

また当グループでは医療的な安心と安全を目指した仕組みづくりは当然のこと、さらに下記の取り組みを行いリピーターさんやファンを増やし、地域貢献につなげています。

- ・施設や部屋のつくりはホテルをイメージし、心の不安につながる暗くて冷たい感じは可能な限り排除して温かみを感じる色使いを採用
- ・日常では味わえない特別感のある食事を提供（産科の場合、食事に求められるのは効率的な栄養摂取というよりも特別感であることが多いです。女性は家事や育児のため一人でゆっくりとした食事を楽しむ機会が非常に少なく、その唯一の機会とも言える入院中の食事をとても楽しみにされています）
- ・エンジェルメモリーやベイビーストーリーといった、胎児のエコー動画や出産時の写真といった大切な思い出をDVDに残すサービスの提供
- ・ご出産後に骨盤矯正、鍼灸治療、美容診療をプレゼント
- ・パパママ教室で妊婦様やパートナーの方へ赤ちゃんのケアや準備すべきことをお伝え
- ・マタニティーヨガやエクササイズで妊婦様と胎児の健康を保つお手伝い
- ・産後ケアで授乳の悩みを解決、また育児疲れを癒す手助け
- ・看護学生の実習を受け入れ、社会の助産師数を増やす一助に
- ・性教育や命の大切さを伝える授業の講師を務めて地域貢献
- ・ファミール祭、餅つき大会、プロレスイベントで毎回300名以上、最多800名を超える皆様と交流して認知度アップし、産婦人科医院に対する心の垣根を取り払い、楽しく明るいイメージづくり
- ・るんるんの塔、ベンチとブランコのある人工芝の庭を開放し、親と子が笑顔になる場を提供

こうした経営方針や数々の取り組みの結果、世界的な経済誌であるForbesの日本版であるForbes JAPANにも掲載されました通り、昨年5月に当グループは船井総研主催のグレートカンパニーアワードで顧客感動賞を受賞しました。これは高次元の顧客満足を実現させ、地域になくてはならないサービスを提供している企業に与えられる賞です。また2013年に社会貢献チャレンジ賞（事業を通じて時流に即した社会貢献を実現出来ている会社様に贈られる賞）で受賞したのも含めグレートカンパニーアワードを2度受賞しています。この結果は地域や患者様が求めているサービスや医療を当院が提供できている証であると自負しております。

付け加えまして、有田市が展開しているマリー・ユーという結婚・出産・子育て・移住への手厚い支援策と、岸田首相が掲げる「異次元の少子化対策」の効果を見込みますと、より多くの分娩に対応できる病床数が必要になると存じます。

これら要因による分娩数増加に対応するための病床を2床と考え、合計12床の設置を希望します。

分娩数一覧

西暦	和暦	有田市立病院	ファミリー たてやま
2001	13	---	---
2002	14	---	---
2003	15	---	---
2004	16	---	---
2005	17	---	---
2006	18	---	---
2007	19	---	---
2008	20	---	---
2009	21	---	---
2010	22	---	---
2011	23	---	---
2012	24	---	---
2013	25	---	---
2014	26	---	333
2015	27	---	279
2016	28	---	319
2017	29	32	278
2018	30	60	275
2019	1	29	198
2020	2	0	260
2021	3	0	272
2022	4	54	243

出生数一覧

有田郡市			人口の推移 HPより	GD freakH Pより	人口の推移 HPより		
西暦	和暦	有田市	湯浅町	広川町	有田川 町	合計	備考
2001	13	323	121	56	251	751	
2002	14	298	125	59	241	723	
2003	15	281	126	63	231	701	
2004	16	271	114	57	226	668	
2005	17	257	114	60	203	634	
2006	18	250	124	49	214	637	
2007	19	238	112	73	220	643	
2008	20	233	97	67	200	597	
2009	21	238	108	60	229	635	
2010	22	222	94	61	175	552	
2011	23	199	100	50	201	550	
2012	24	212	106	55	193	566	
2013	25	229	92	49	185	555	
2014	26	195	91	50	224	560	
2015	27	203	92	40	200	535	
2016	28	160	73	53	208	494	有田市提供資料より
2017	29	158	74	49	168	449	//
2018	30	141	55	29	172	397	//
2019	1	137	57	29	193	416	//
2020	2	127	59	31	214	431	//
2021	3	127	55	26	171	379	//
2022	4						

(付録1)

館山市域		GD freakH Pより	GD freakH Pより	GD freakH Pより	
西暦	和暦	館山市	南房総 市	鋸南町	合計
2001	13	415	230	51	696
2002	14	402	269	50	721
2003	15	378	259	50	687
2004	16	399	229	48	676
2005	17	384	239	35	658
2006	18	385	220	48	653
2007	19	389	230	42	661
2008	20	350	215	43	608
2009	21	359	202	38	599
2010	22	362	189	33	584
2011	23	348	189	32	569
2012	24	349	203	37	589
2013	25	293	185	27	505
2014	26	310	208	29	547
2015	27	297	159	27	483
2016	28	282	157	23	462
2017	29	273	131	31	435
2018	30	272	119	29	420
2019	1	198	95	20	313
2020	2	242	101	15	358
2021	3	210	92	15	317
2022	4				

＜有田市からの資料について＞

1. 有田市「Marry You」を中心とした関係支援策
2. 有田地方の出産子育て支援策一覧 （資料 1 別添）
3. 有田市市民意識調査結果(抜粋)・令和 4 年 3 月
4. 有田市まち・ひと・しごと総合戦略(抜粋)・令和 2 年 3 月
長期人口ビジョン（目指す将来の方向）・令和 2 年 3 月
長期総合計画基本計画（抜粋）・令和 3 年 3 月
5. 開院後の連携について(資料無し)



-結婚するなら有田市で-

令和3年度スタート

将来を担う
若い世代の
増加

「結婚」「妊娠」「出産」「子育て」「自立」
の各ステージで、まちの希望を担う子ども・若者、子育て世代に積極的な支援を展開し、定住移住を促進します。

結婚

妊娠・出産

子育て

自立

結婚

定住支援

結婚新生活支援事業①
家賃・引越代など
最大60万円補助

結婚新生活支援事業②
お世話になった
方へ有田市の
産品を贈呈

**スマイル
チケット事業**
妊娠時2万円
出産時3万円

ファミール産院 ありだ
運営を1市3町で支援

出産支援事業
10万円(1人目)
30万円(2人目)
50万円(3人目以降)

R2 133件
R3 114件
R4見込 130件

節目応援事業
小学校、中学校に
入学する世帯へ
10万円/人を補助

**病児・病後児
保育無料化**
小学6年生までの
病児を無料で保育

子ども医療費助成事業
高校卒業まで医療費無料

子育て世代活動支援センター
「WakuWaku」

**奨学金返還
助成事業**
29歳までの
奨学金返還額へ
補助
最大20万円/年

移住支援

空き家を活用
最大100万円補助

空き地を活用
最大120万円補助

空き家の家財道具等の処分支援
最大10万円補助

契約の仲介手数料を補助
最大5万円補助

三世代定住支援
最大20万円補助

住宅リフォーム支援
最大20万円補助

創業支援補助
最大50万円補助

販路開拓支援補助
最大20万円補助

**新規農業・漁業就業者
担い手育成へ支援**

R2 21件
R3 25件
R4 32件

毎年総額**約2億円**

**令和 3 年度
有田市市民意識調査
結果報告書**

**令和 4 年 3 月
有田市**

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の生活意識や市政に対する満足度・要望等を把握し、今後の市政運営や政策立案の基礎資料として活用するために行いました。

2 調査の設計

調査地域：有田市内全域

調査対象：市内に居住する満16歳以上50歳未満の男女2,000名を無作為に抽出

調査方法：郵送による配布・回収またはインターネット回答

調査期間：令和3年12月3日～12月17日

回収結果

	配布数	回収数	回収率
満16歳以上 50歳未満	2,000票	737票	36.85%

3 報告書の見方

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- ・「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率%）で表しています。
- ・図表中の「n」は当該設問の回答者総数を表しており、百分率%は「n」を100%として算出しています。
- ・百分率%は、全て小数点第2以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しているため、選択肢の割合の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問では、全ての比率の合計が100%を超えることがあります。
- ・図表中の「0.0」は四捨五入の結果、または、回答者が皆無であることを表します。

(12) 今後、出産・子育て環境のために充実してほしい取組

問 25

より多くの人々が有田市内で安心して子どもを産み育てるために、行政として有田市が実施する支援策について、今後、どのような取組を充実させるべきだと思いますか。次の中からそれぞれ3つ以内でお選びください。

<○は3つまで>

【出産環境】

今後、出産・子育て環境のために充実してほしい取組（出産環境）について、「産婦人科や助産院など出産のための受け入れ施設の整備」が最も多く 62.0%、次いで「妊婦の健康診査費用や分娩費用の負担を軽減するための、助成や貸付などの経済的支援」が 42.9%、「妊娠・出産に関して、有田市内で利用できる各種サービスの総合的な情報提供体制」が 33.1%と続いています。

性別では、女性は男性に比べ「産婦人科や助産院など出産のための受け入れ施設の整備」の割合が高くなっています。

年齢別では、20～24歳で「妊娠期間中の家事や育児の負担を軽減するための人的支援」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

(%)	産婦人科や助産院など出産のための整備	妊婦の健康診査費用や分娩費用の負担を軽減するための経済的支援	妊娠・出産に関する各種サービス、有田市内での利用	不妊治療費用などの負担を軽減するための支援	妊娠期間中の家事や育児の人的負担を軽減	妊娠・出産に関する悩みや相談を	その他	無回答
全体 (n=737)	62.0	42.9	33.1	30.3	22.0	21.8	2.3	5.7
【性別】								
男性 (n=315)	48.6	41.3	36.8	24.1	28.3	22.5	3.5	7.3
女性 (n=411)	72.7	43.8	30.4	34.8	17.0	21.7	1.5	4.1
【年齢別】								
16～19歳 (n=99)	48.5	46.5	30.3	26.3	26.3	35.4	0.0	4.0
20～24歳 (n=95)	55.8	51.6	29.5	26.3	33.7	28.4	2.1	1.1
25～29歳 (n=83)	62.7	41.0	42.2	32.5	22.9	24.1	2.4	2.4
30～34歳 (n=102)	58.8	42.2	38.2	33.3	20.6	17.6	2.0	10.8
35～39歳 (n=113)	66.4	43.4	30.1	29.2	19.5	20.4	6.2	4.4
40～44歳 (n=134)	67.9	41.0	27.6	38.1	14.9	11.9	2.2	7.5
45～49歳 (n=108)	72.2	35.2	36.1	25.0	19.4	20.4	0.9	7.4

結婚の有無別では、既婚（事実婚含む）の人は独身（死別・離別含む）の人に比べ「産婦人科や助産院など出産のための受け入れ施設の整備」の割合が高くなっています。

子どもの有無別では、子どもがいる人は子どもがいない人に比べ「産婦人科や助産院など出産のための受け入れ施設の整備」の割合が高くなっています。

子どもの人数別では、理想より多い・同じ人は理想より少ない人に比べ「妊婦の健康診査費用や分娩費用の負担を軽減するための、助成や貸付などの経済的支援」の割合が高くなっています。

「Marry You」への反応別については、効果があると思う人は効果がないと思う人に比べ「産婦人科や助産院など出産のための受け入れ施設の整備」の割合が高くなっています。

(%)	産婦人科や助産院など出産のための整備	妊婦の健康診査費用や分娩費用の負担を軽減するための、助成や貸付などの経済的支援	妊娠・出産に関する各種サービス、有田市内で利用	不妊治療費用などの負担を軽減するための拡大	妊娠期間中の家事や育児の負担を軽減	妊娠・出産に関する悩みや相談	その他	無回答
全体 (n=737)	62.0	42.9	33.1	30.3	22.0	21.8	2.3	5.7
【結婚の有無別】								
既婚（事実婚含む） (n=174)	79.3	48.3	27.0	39.7	16.7	13.2	1.7	3.4
独身（死別・離別含む） (n=557)	57.1	41.5	35.2	27.5	23.9	24.8	2.5	5.7
【子どもの有無別】								
子どもがいる (n=212)	79.2	47.2	27.8	35.4	17.9	12.7	1.9	3.3
子どもがいない (n=494)	56.5	42.3	36.0	29.4	24.7	26.7	2.6	3.6
【子どもの人数別】								
理想より多い・同じ (n=347)	65.4	51.6	35.4	33.4	22.8	23.6	1.7	2.0
理想より少ない (n=199)	67.8	39.2	31.7	34.2	21.1	16.6	2.5	2.0
【「Marry You」について】								
効果があると思う (n=501)	66.9	46.9	35.3	33.3	23.4	24.4	1.0	2.0
効果がないと思う (n=203)	56.7	37.9	31.0	26.1	19.7	18.2	5.9	4.9

(6) 市政・人口減少対策に関する意見・要望（自由記述回答）

問 41

最後に有田市の市政や人口減少対策について、ご意見やご要望がありましたら、どんなことでもご自由にご記入ください。

自由記述

No.	内容	件数
1	出産・子育て支援の充実、分娩できる産院の確保	37
2	若者が定着しやすいまちづくりや移住の推進など、人口減少対策	26
3	企業誘致、雇用の創出・促進、賃上げ等	24
4	交通の不便さへの不満、公共交通機関の充実など	20
5	買い物や外食、レジャー等利便性の向上	20
6	医療福祉の充実	13
7	公園や子どもが遊べる場所、学びやスポーツの場の充実	12
8	結婚支援制度（Marry You）や出会いの場の提供について	11
9	市政・財政のクリーン化、見える化、税金軽減、職員の質について	11
10	中学校の統廃合について不満や不安など	10
11	災害（地震、津波、台風）対策について	10
12	道路や上下水道などインフラの整備、景観の向上	10
13	町おこし、観光の推進	8
14	教育制度の充実、教員や学習内容の質向上	8
15	広報など、市の情報提供やPRの充実	6
16	障害者福祉の充実	4
17	新型コロナウイルス感染症対策について	4
18	高齢者福祉の充実	4
19	住みやすいまちづくりについて	3
20	空き家、空き地対策	3
21	有田市のフードチケットについて	3
22	その他	40



第2期有田市 まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 魅力ある「しごと」と「まち」をつくりあげる「ひと」～



令和2年3月
和歌山県 有田市

有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ～ つながるまち、ありだ ～

総合戦略数値目標

合計特殊出生率	1.8 (2024 年)	(2015 年推計 1.47)
転出超過数	△100 人 (2024 年)	(2019 年 △285 人)
住みやすいと感じている市民	80% (2024 年度)	(2018 年度 69.1%)
子育て世代の満足度	70% (2024 年度)	(2018 年度 59.1%)

施策体系

— 基本目標 1 —

誇れるまち有田市

すべての人が健康でかつ安全・安心して暮らせるまちづくり、子どもを健やかに育てることのできる環境を整え、市民の活力があふれ、心の豊かさを実感できるまちを創ります。

1 妊娠・出産・子育ての環境整備

(ア) 妊娠・出産・子育て支援の充実

2 質の高い教育環境の実現

(ア) 教育の充実と環境整備

(イ) 郷土愛を育む取組の充実

3 安全・安心で豊かな暮らしの実現

(ア) 安全・安心な暮らしの実現

(イ) 豊かな暮らしの実現

(ウ) 美しいまちの実現

— 基本目標 2 —

アクティブなまち有田市

まちの魅力と活力を生み出す投資を行い、地域産業の高度化を進め、魅力ある働く場所の創出につなげるとともに、地域資源を活用した関係人口の創出・拡大につなげます。

1 地域産業の発展・維持

(ア) 農業の振興

(イ) 水産業の振興

(ウ) 商工業の振興

(エ) 地域資源を活用した関係人口の創出・拡大

— 基本目標 3 —

モテるまち有田市

地域資源を掘り起こし、磨き上げ、“行ってみたい” “住んでみたい” “モテるまち”を実現することで、有田市への新しい人の流れを創ります。

1 地域資源の磨き上げ

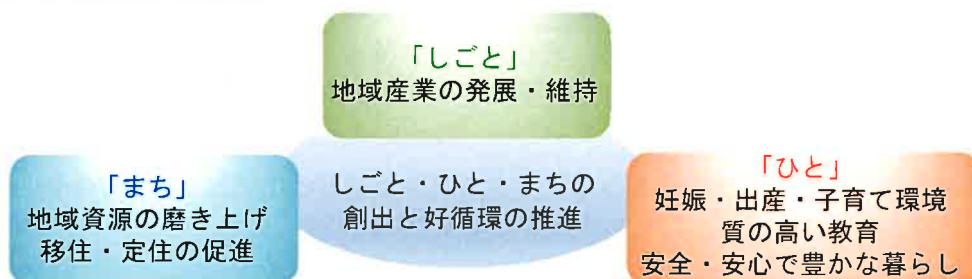
(ア) 地域資源の掘り起こし・磨き上げ

2 移住・定住の促進

(ア) 移住支援

「しごと」が生まれ、新しい「ひと」の流れが生じ、その「ひと」が有田市で新しい「しごと」を創出する好循環

若い世代の結婚・出産・子育てに関する希望がかなう環境を整える



Ⅱ 目指す方向性と具体的な施策

基本目標 1 誇れるまち有田市

すべての人が健康でかつ安全・安心して暮らせるまちづくり、子どもを健やかに育てることのできる環境を整え、市民の活力があふれ、心の豊かさを実感できるまちを創ります。

1 妊娠・出産・子育ての環境整備

強化施策

■安全で安心な出産ができる環境整備

市立病院での分娩再開にむけ、産科医確保の取組を一層強化するとともに、助産所の誘致など安心して出産できる環境を整えます。

市立病院産科医師確保	3名確保 (2024年)
診療所、助産所の誘致	1カ所 (2022年)

■子どもの健やかな成長を支える医療の充実

少子化の進む中、子どもの健康を守り育てるための小児医療体制（外来診療、入院・救急受入体制）を整備し、保護者の育児面における安心の確保を図ります。

小児救急・入院受入体制の強化	有田圏域の完結率 80% (2024年度)
----------------	--------------------------

■幼稚園・保育所の一元化を含めた保育所の再編計画策定と着実な推進

将来にわたって子どもたちが安全で快適に過ごすことができるよう幼稚園・保育所の一元化の検討や施設の建て替えなどを含めた保育所の再編を行い、一人ひとりの成長の基礎となる質の高い教育・保育環境を整えます。

保育所再編計画策定	2021年度策定
-----------	----------

主要施策

(ア) 妊娠・出産・子育て支援の充実

① 妊娠期から子育て期に関する支援

「安心して子どもを産み育てることができる有田市」として、『第2期有田市子ども・子育て支援事業計画』に掲げる妊娠から出産、子育て期までの切れ目ない支援を充実します。

● 情報発信の充実

妊娠中や子育てに関する情報が容易に入手できるよう、モバイル端末等を活用した情報発信を行います。

●相談等による育児不安の解消

「孤立しない子育て」環境をつくるため、就学前児童のいる全世帯を対象に家庭訪問支援員が訪問し、乳児家庭の孤立防止や養育上の諸問題への支援を図ります。また、子育て支援に関する情報提供、育児に関する不安や悩みなどの相談・支援が必要な家庭の把握を行うとともに家庭と地域、関連機関をつなぎ、子育て家庭に対する支援を行います。

また、子どもに接するスキルを身につけ、子どもとの関係をスムーズにし、結果、親の子育てに対するストレスを軽減し、子育てが楽しいと感じさせることを目指し、親育てプログラム講座を実施します。

●不妊治療に対する経済的支援

子どもを産み育てることを望む夫婦の不妊治療の経済的負担を軽減し、不妊治療を受けやすくするため、不妊治療に要する費用の一部を助成します。

●協働による子育て支援

有田市で結婚し、妊娠・出産・育児をしていきたいと思えるようなまちづくりに向け、地域住民同士で支え合える体制づくりに取り組むとともに、行政パートナーなど、市民や団体と協働し、孤立しがちな子育て中のママの居場所づくりを積極的に行います。加えて地域の子育て支援を行う人々を育成します。さらに、有田市の若い世代に向けて、乳幼児と積極的に交流できるような機会をつくり、将来的な子育て支援としての体験の場を設けていきます。

●仕事と家庭の両立支援

少子化により子どもの数は年々減少しているものの、女性の社会進出など、保護者の多様な働き方への対応を図ることが重要となっています。仕事をしながらも安心して子育てができる環境をつくるため、「延長保育事業」、「病児病後児保育事業」子どもを預けたい家庭と預かってくれる家庭の橋渡しをする「ファミリーサポートセンター事業」などの子育て支援事業を実施します。

進捗管理目標

進捗管理目標	戦略基準値 (2018 年度)	戦略目標値 (2024 年度)
(ア) 妊娠・出産・子育て事業		
子育て世代の満足度	59.1%	70%
年少人口 (0～14 歳)	2,995 人 (2019 年 4 月 1 日)	2,965 人 (2024 年)



有田市長期人口ビジョン

令和2年3月

第3章 めざす将来の方向

第1節 有田市のあるべき将来人口を達成するために

ここまで述べてきたように、持続可能な人口形態を目指し、2060年に1.9万人の人口を確保するためには、社会減の抑制と自然減の抑制の両方に向き合っていかなければなりません。そのために、以下のような方向性をもって、転入の増加と転出の抑制、出生率の向上、そして活力あるまちづくりに努めていきます。

(1) 転入の増加と転出の抑制

従来の地域産業の発展・維持に努めていく一方で、新たに事業を始めようとする方を応援し、雇用の創出と確保を図ります。また、既存の地域資源を磨き上げるとともに、これまで注目されてこなかった地域資源を掘り起こし、その魅力を内外に広くPRしていくことで、新たなひとの流れを生み出します。

加えて、Society5.0の実現に向けた技術の積極的な活用を推進し、若者の仕事の創出と高齢者が働き続けられる産業構造を目指します。

(2) 出生率の向上

結婚・出産・子育てのそれぞれの段階に応じて、多方面から施策を講じ、経済的負担、身体的負担、精神的負担、その他あらゆる障害を緩和することで、有田市で子どもと暮らそうとする方の希望をかなえます。また、質の高い教育環境を整備していくことで、将来の有田市を担う子どもたちが健やかに育つよう施策を進めます。さらには働く人の立場に立ち夫婦共に仕事と育児の両立ができる環境づくりを支援していきます。

(3) 活力あるまちづくり

危機管理を含む住環境の整備を継続し、市民の皆さんが安心して活動できるまちづくりをおこないます。また、行政だけでなく、民間の事業者や市民の皆さんとともに歩んでいくため、市民協働を促進します。また、本市が誇る農業、漁業のスマート化や国内有数の大手企業の事業所を通じた関係人口の創出を行い、UIJターンの拡大を推進します。

第2節 未来を創造する決意

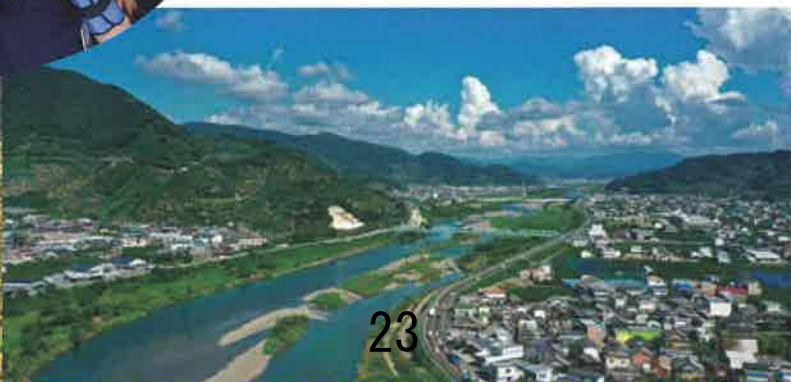
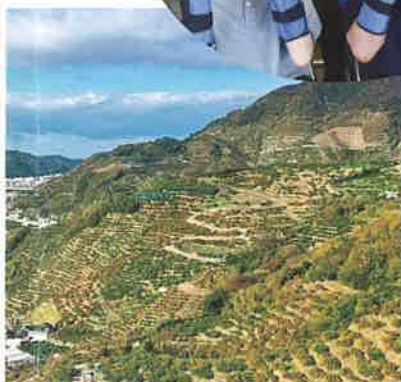
上記のような方向性をもって未来を創造するにあたり、多方面にわたる取り組みを「第2期有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」としてまとめ、確実に実行していきます。しかしながら、人口減少や少子高齢化という大きな課題に立ち向かっていくためには、行政のみならず、民間の事業者の方や市民の皆さんと意識を共有し、手を取り合って進んでいくことが不可欠です。そのために、市民の皆さんとの意見交換、外部有識者による施策の遂行状況の確認を取り入れ、その時々状況に応じた修正をおこなうことで、施策の実効性を担保し、よりよい有田市の未来に向かって着実に歩みを進めていきます。



人が輝き まちが色づく 魅了都市 ありだ

～みんなが躍動する Active Arida～

第5次有田市長期総合計画



政策 1-2 市立病院及び地域医療体制

施策に関する目標達成指標

指標名	現状 (2019)	目標値 (2024)
市立病院の充実と地域医療体制に対する市民満足度	24.8%	50.0%
新市立病院の建設	—	建設開始

現状と課題

- 有田保健医療圏（以下「圏域」といいます。）における中核病院として、急性期・回復期・予防医療及び在宅医療を軸に救急医療、周産期・小児医療、感染症指定医療機関や災害拠点病院としての役割を担う中、人口減少・少子高齢化の進行により、特に周産期・小児医療の充実が必要となっていますが、産婦人科医師の退職に伴い常勤医師が不在となるなど、令和元年（2019年）12月以降、分娩休止の状態が続いています。
- 二次救急の圏域外流出率が高いことから、救急医療体制の構築が急務となっています。
- 圏域の中核病院としての役割を全うするためには、医師の確保や多様な医療機能の充実、施設の建て替えなど、地域住民のニーズに応じる医療提供体制が求められています。

基本方針

- 圏域を視野に入れ、県及び圏域内自治体の協力を得ながら、救急医療、周産期・小児医療、認知症疾患医療センター、第二種感染症指定医療機関、災害拠点病院など、公立病院としての役割を担います。
- 圏域内唯一の公立の中核病院として、地域医療の需要に応じた質の高い良質な医療を行い、利用者から信頼される医療提供体制を構築します。
- 地域医療のさらなる充実を図るため、圏域内自治体及び医療機関相互の連携・機能分担の強化に取り組むとともに、効率的な新市立病院の建設、経営形態の見直しに取り組みます。

施策・事業の内容

施策名	事業の内容
①周産期・小児医療体制の拡充及び質の高い医療提供体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ●医師確保及び助産師等の研鑽を行い、分娩再開を目指す ●小児救急、小児入院医療体制の充実に向け取り組む ●圏域の救急医療体制を拡充するため、保健所・各病院・各消防との連携を強化するとともに、院内においては当直応援医師確保等を図りながら、内科系・外科系のダブル当直体制及び医療スタッフ配置体制を構築する ●感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス等対応の外来設置や他施設への感染指導等、圏域における感染拡大防止を図る ●圏域の無医地区等、へき地医療のため、かかりつけ医との連携等による医療体制の充実に向け取り組む ●持続可能な病院経営を図るため、県や各自治体との協議、指定管理・広域圏での経営等、様々な経営手法を視野に取り組む ●安定した医師確保につなげるため、派遣元大学に関わらず、他大学・民間紹介会社への積極的な働きかけを行う ●医師の働きやすい環境づくりとして、子育て中の時短勤務制度の構築、院内保育の拡充や看護師の特定行為研修受講推進、また、医師事務作業補助員の強化や救急救命士のセカンドキャリア構築といったタスクシフティング³による医師への負担軽減に向け取り組む
②地域医療連携	<ul style="list-style-type: none"> ●医療から介護まで切れ目のない包括支援体制を構築するため、医療・保健・福祉・介護との連携を強化する ●地域医療体制の充実に図るため、圏域の自治体及び医師会のさらなる連携を強化する ●さらなる医療機能の分担を図るため、医療機関相互の連携を強化する
③新市立病院建設開始及び医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●新市立病院建設については、有田海南道路完成による医療の流入・流出を見据えるとともに、災害拠点病院としての役割も踏まえた候補地の選定を行う ●地域医療構想を踏まえ、圏域を視野に入れた新病院における適正規模や医療機能を組み込んだ基本構想を策定するとともに、速やかに基本設計、実施設計に取り組む ●医師をはじめとする職員配置計画の策定、経営分析及び収支計画の策定とともに、建物や医療機器に係る経費の算出等を行う

施策に関する個別計画

- ・第2期有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・有田市立病院改革プラン

施策関係課

【担当課】市立病院

【関係課】市民福祉部 健康課
消防本部

³ タスクシフティング/医療行為の一部を他の職種へ委譲すること